

学校教育目標		知・徳・体が調和的に発達し、人間性豊かな生徒を育成する。				重点目標		わかる授業・楽しい授業を実践する。			
評価計画						自己評価		学校関係者評価		改善計画	
重点目標	目標達成のための具体的な方策	取組指標(教師の取り組み)は成果指標へとたどりつく道しるべである。質的なもの(教職員の意識)と量的なもの(時間・労力・回数がある。)	成果指標(目指す生徒の姿)は現実の生徒の姿をもとにステップアップ方式でレベル設定する。	評価	結果(成果と課題)	評価	コメント				
教科経営の充実	基礎・基本の定着のための授業構成を工夫する。(めあて・まとめ・板書・基礎的知識・技能の活用)	生徒対象の授業評価を年2回実施する。	4	授業がわかった・楽しいと答える生徒	3	○授業評価を確実に実施することで、個々の職員が授業の振り返りを行うことができた。 ●市内共通で作成している学習応援ガイドの活用や学習オリエンテーションの実施が十分ではない。 ●言語活動に自信の持てない生徒がまだ多い。	A	・学力は急に伸びるものではないが、いろいろな方法で努力していただきたい。	○24年度発足時の学習オリエンテーションの時間確保と教科ごとの実施の把握 ○50分の授業構成の工夫と発表マニュアルの共通化		
	言語活動の場を設定し、言語力を高める。	単元ごとに言語活動の場を設定する。	3	授業中、自分の考えを発表したり、書けたりできたと感じる生徒	2						
	客観的なデータに基づく学力分析と改善を行う。	教科ごとに学力向上プランを作成し、改善策を明らかにする。	3	学力テスト等で前年度より向上している生徒	3						
	学習応援ガイド等の活用を確実にし、学び方や学習規律を定着させる。	学年や教科チームでの具体的な取り組み計画を作成・実践する。	2	学習の仕方がわかる・学習習慣が身についたと答える生徒	2						
重点目標 学年・学級経営の充実	教科担任と連携し、補充的学習の充実を図る。	1Pノートの確実な点検や10分アタックでの指導を徹底する。	4	1Pノートの提出率、定期考査問題の回答率	3	○学習の基盤となる学年・学級づくりには、全職員が連携して取り組むことができた。 ○10分アタックの効果が確実にあらわれてきている。 ●生徒の自尊心が低い傾向にある。	A	・毎日の積み重ねが成果を出していることがわかった。 ・子どもたちがもっと自信をもって何事にも取り組むようになればと思う。	○様々な行事や体験活動のねらいを明確にし、生徒の主体的活動を通して、達成感を味わわせる。 ○学級等で一人一人の生徒に役割を与え、責任感と共に充実感を味わわせる。		
	さまざまな行事・体験活動の中でよりよい人間関係づくりを行う。	諸調査・アンケートにより確認をし、ポイントの低いものを重点化する。	3	生活意識調査等で前向きな回答をする生徒	4						
	生徒一人一人が居場所のある学級づくりを行う。(教育相談)	6月・11月の教育相談月間だけでなく、日常的な声かけに努めていく。	3	学校生活アンケート等で満足度が高い生徒	3						
	学びの基礎となる学習規律・学習習慣づくりを行う。	学級活動(朝の会・帰りの会)での賞賛・励まし・指導を充実する。	3	授業評価での自己評価結果の向上	3						
関係する評価 小学校・保護者・地域との連携の充実	基礎的な生活習慣・規範意識を形成する。	挨拶・服装・時間・言葉使いについて観察・アンケートにより確認する。様々な機会をとらえて生徒の意識を高める。	3	挨拶等について「できている」と答える生徒(教師・保護者の評価が前年度より向上している)	2	○小学校との連携は、より具体化するようになってきた。 ●挨拶・服装等に関して生徒の遵守意識が低くなっている。	A	・小学校との連携を意識されていることは素晴らしいことだと思う。お互いの垣根を低くしていただきたい。	○小学校と連携する「指導の手引きマニュアル」を作成し、職員が同じ姿勢で生徒に臨むようにする。○家庭の役割についてもPTとの連携の中で、呼びかけていく。(家庭学習強調週間の設定)		
	小学校との共通実践項目を作り、連携を具体化する。(あいさつ)	年間計画に基づいた小中連携推進のための諸会議の開催と方策の具体化を図る。	4	(小中の情報交換と家庭・地域への発信)	3						
	学校広報誌チャレンジ! 白光、M-ボードやメルマガ通信による情報提供	発行後の保護者や生徒の声を確認する。	4	(アンケートの実施)	4						
関係する評価 教職員の協働体制の推進	主任・主事の学校運営への参画意識を高める。	リーダーとして、PDCAを意識した発言を求める。	4	(自己評価結果が前年度より向上している)	3	○協働体制についての職員の共通理解は得られている。 ●個々の指導力については若干の差がある。	A	・先生たちが一生懸命に取り組んである様子がわかった。ぜひ、学校全体として動かれるようお願いする。	○学習指導に関しても指導の手引きマニュアルに沿って行えるようにする。		
	一人一人の教師力・指導力の向上に努める。	一人一回の公開授業と一般研修の実施	4	(授業反省会の実施・担当の企画立案・実施)	3						
	初任者研修に全職員で取り組み、共に育つことを心がける。	学校全体で取り組む研修計画の作成	4	(研修計画の評価・中間評価・年度末評価)	4						
関係する評価 地域に開かれ、信頼される学校づくり	前年度の反省をもとに自己評価を充実したものにす。	評価項目を検討し、実施後の改善策を提示する。	4	(評価表の作成・修正)	4	○地域のひと・もの・ことのかかわり・つながりについては年間を通して行うことができた。 ○学校からの様々な情報発信の良さも認められている。	A	・いろんな方から白光中の生徒の活躍を聞いていた。これを今後も続けていくような取り組みにしてほしい。	○地域・保護者の声を聞きながら、活動の継続化を図る。地域の支援ネットワークをつくる。		
	関係者評価委員会を開催し、更なる充実を図る。	関係者評価委員会を定期的に開催し、意見や提言を生かす。	4	(中・短期的なスパンでの修正・改善)	4						
	地域のひと・もの・ことの活用(GTや地域行事への参加)	地域の中での学びを意識した指導計画づくり(行事・白光タイム・各教科等)	4	地域を身近に感じる生徒	3						

成果指標(めざす生徒像)について

評価規準をクリアできた生徒  
自己評価 4: 目標達成(90%以上) 3: ほぼ達成(70%~90%) 2: もう少し(60%~70%) 1: できていない(60%未満)  
学校関係者評価 A: 自己評価は適切である B: 自己評価はほぼ適切である C: 自己評価はあまり適切でない D: 自己評価は不適切である